

北海道浅井学園大学短期大学部2003年入学者の 生活意識に関する調査

A Survey on Life Consciousness of Students Matriculated to
Hokkaido Asai Gakuen College in 2003

高野 裕	白佐 俊憲	谷川 幸雄
Yutaka TAKANO	Toshinori SHIRASA	Yukio TANIKAWA
桑原 雅子	出淵 護	
Masako KUWABARA	Mamoru DEBUCHI	

I 調査の趣旨・方法

この報告は、創立40周年を記念して、北海道浅井学園大学短期大学部（以下短大部という）が2003年4月入学者を対象に実施した総合調査の一部（生活に関する意識調査）をまとめたものである。短大部の発展の節目にあたる年に入学した学生の生活意識の実態を総合的にとらえておこうという試みは、それ自体意義深いことである。既に短大部では、創立20周年を記念して1983年4月に第一回の調査、続いて1993年4月にも同様の調査を行なっているが、今回は2000年に旧北海道女子大学短期大学部から北海道浅井学園大学短期大学部に校名が変更されて男女共学の短大部となって初めての調査である。この期に急激な社会構造の変化に伴う、学生の意識の推移を比較検討することは、資料としての価値は一層増すこととなるであろう。なお、この調査の目的は、様々な角度から本学入学者の意識などを明らかにし、本学における総合的學生指導の基礎資料を得ることにある。

さて、本調査でとりあげた「生活意識」の調査内容であるが、過去2回の調査結果と比較検討することから、主要項目は前回の入学者に実施したものを残しているが、男女共学に移行したことから質問項目の一部は変更している。また、時代の変化に伴いパソコンに関する調査項目を付加している。パソコン以外の調査項目の設定にあたっては初回の調査において、全国的な女子青年と比較でき、将来も同一内容で実施できるような標準的項目を採用したいという配慮から、政府の青少年対策本部が継続的に実施している調査を検討し、その中から選んだものを継続している。今回も実施上の制約から、生活観・人間観・家庭観・結婚観・パソコン観の項目に限定している。個々の調査項目の内容は調査結果と一緒に述べるので、ここでは省略する。

本学部は2003年度より人間総合学科と初等教育学科の2つの学科から構成されている。さらに人間総合学科は興味や進路に合わせて、5つの学習系列：服飾美術系・スポーツ科学系・養護保健系・経営情報系・総合教養系（以下服飾系、スポーツ系、養護系、経営系、総合系とい

う)に分け希望する学習系列に軸足を置きながら他の学習系列を自由に学習できるようになっている。また、初等教育学科(以下初等科という)は学生の研究心や好奇心に応えるとともに幼児・児童の保育や教育指導に必要な図画工作・音楽・体育の3つのコースに分け専門知識や能力の向上を図っている。今回の調査は5つの学習系列と初等科の比較結果も合わせて行った。なお、対象群の表記については、各学習系列・科別の名称の最初の二文字を略記している。対象者の内訳は、服飾系64名、スポーツ系154名、養護系80名、経営系56名、総合系44名、初等科127名の合計525名(男123名・女402名)である。これらの対象群については、前回の調査における5学科編成時(1210名)の半数ほどに減っている。

以下の結果の整理・報告は、各調査項目について、①2003年入学者の全体傾向、②2003年入学者の人間総合学科の各学習系列・初等科別の検討、③1993年入学者全体と2003年入学者女子全体との比較検討、(必要に応じて男女の比較)という順序で行う。

なお、結果の記述においては、紙面の制約から、表はパーセントのみで示し、統計的な有意性の検定(度数は χ^2 検定、平均は t 検定による)表の作成にあたっては、該当数の多い順に並べたものや、いくつかの微少該当項目を合算して示したものである。なお、検定結果については有意差が顕著に認められる回答のみを記載している。また、文章も要約的、結論的に述べることになる。これらのことをあらかじめ断っておきたい。

II 調査結果および考察

1. 生活観

(1) 暮らし方についての意識

最初に、人の暮らし方について、どのような考えを最近の青年は持っているのかを短大部の学生の意識を通して考察する。次の質問によって、表1に示すような結果が得られた。

- 人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次の中であなたはどれをえらびますか。
一番良いと思うものを一つ選び、記号を○でかこんで下さい
- イ. いっしょうけんめいに働き、儉約して金持ちになる
 - ロ. まじめに勉強して名をあげる
 - ハ. 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をする
 - ニ. その日その日をのんきにくよくよしないで暮らす
 - ホ. 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす
 - ヘ. 自分自身のことを考えずに、国家社会のためにすべてをささげ暮らす

まず、2003年入学者の全体的傾向についてであるが、「金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をする」が54.3%と半数を超えている。次に「いっしょうけんめい働き、儉約して金持ちになる」が21.1%を示し「その日その日をのんきにくよくよしないで暮らす」が17.1

%と上位を占め、3項目で92.5%に達している。「金や名誉を考えず」「その日その日をのんきに」の個人生活重視型のものが8割を超えているのに対し、項目イ・ロの立身出世型の者は24.7%と少なく、さらに、項目ホ・への自己献身型は合計で3.3%とごく少数である。

2003年入学者の学習系列と科別の検討では、個人生活重視型は経営系以外は全て7割を超えている。男女の比較では、「その日その日をのんきにくよくよしないで暮らす」が男8.9%女19.7%と倍以上の差が出ている。

表1 暮らし方についての意識

(%)

項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討									1993年 入学者全体
	対象群	服飾	スポ4	養護	経営	総合	初等	男性	女性	
趣味にあった暮らしのんきに暮らす	57.8	57.8	50.0	46.4	54.5	54.3	58.5	53.0	54.3	65.6
節約して金持ちになる	12.5	12.3	27.5	14.3	13.6	21.3	8.9	19.7	17.1	17.5
清く正しく暮らす	20.3	23.4	17.5	32.1	18.2	17.3	23.6	20.4	21.1	10.1
勉強して名をあげる	3.1	1.9	1.3	5.4	2.3	3.9	1.6	3.2	2.9	3.6
国家や社会のために	4.7	4.6	2.4	1.8	6.8	2.4	5.8	3.0	3.6	3.0
無回答	0	0	0	0	4.4	0	0.8	0.2	0.4	0.2
不明	0	0	1.3	0	0	0.8	0	0.5	0.4	0
個人生活重視型	1.6	0	0	0	0	0	0.8	0	0.2	0
立身出世型	70.3	70.2	77.4	60.7	68.2	75.6	67.5	72.6	71.4	83.1
自己献身型	25.0	27.9	20.0	33.9	25.0	19.7	29.3	23.4	24.8	13.1
無回答・不明	3.1	1.9	1.3	5.4	6.8	3.9	2.4	3.5	3.2	3.8
	1.6	0	1.3	0	0	0.8	0.8	0.5	0.6	0

男女の比較では個人生活重視型は女が多く、立身出世型は男が多くなっている。1993年入学者全体と女全体との比較検討では、自己献身型は、ほとんど同じであるが、立身出世型は2以上に増加している。

以上から、総合的にみて、やや減少傾向にあるが、依然として、個人生活を重視して、生活をエンジョイする暮らし方をよしとする生活意識は、青少年の間に時代を超えて既に定着していると考えられる。また、1993年入学者全体に比べて女性全体で立身出世型が2倍以上に増加しているのは、現代の世相を反映しているものと推測される。

(2) 生きがいを感じる時

次にどのようなとき生きがいを感じるか調べてみる。次のような質問で生きがいを感じることを複数回答で尋ね、表2のような結果を得た。

あなたは、どんな時に生きがいを感じますか。次の中から、あてはまると思うものをあげてください（いくつあげてもよい）。記号を○で囲んでください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| イ. 社会のために役立つことをしている時 | へ. 友人や仲間といる時 |
| ロ. 仕事に打ち込んでいる時 | ト. 親しい異性といる時 |
| ハ. 勉強に打ち込んでいる時 | チ. 他人にわずらわされず、一人でいる時 |
| ニ. スポーツや趣味に打ち込んでいる時 | リ. この中がない |
| ホ. 家族といる時 | ヌ. その他() |

北海道浅井学園大学短期大学部2003年入学者の生活意識に関する調査

2003年入学者は、全体として「友人や仲間といる時」と「スポーツや趣味に打ち込んでいる時」に3分の2以上生きがいを感じている。およそ3割の者が「家族といる時」「親しい異性といる時」をあげている。「勉強に打ち込んでいる時」「他人にわずらわされず一人である時」が5%を下回っている。男女別の比較検討では、「スポーツ・趣味」で有意差がある。服飾系で「勉強に打ち込んでいる時」に生きがいを感じるものが0%なのは気になるところである。

表2 生きがいを感じる時

(%)

項目	対象群	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討								1993年 入学者全体	
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性		全体
友人や仲間		81.3	66.9	76.3	60.7	63.6	71.7	59.3	73.6	70.3	71.8
スポーツや趣味		54.7	85.1	60.0	48.2	52.3	66.1	79.7	62.2	66.3	66.6
親しい異性		37.5	40.9	31.3	30.4	15.9	29.1	41.5	30.3	33.0	27.8
家族		26.6	29.2	35.0	25.0	31.8	33.1	18.7	34.1	30.5	26.4
社会に役立つ		12.5	17.5	22.5	8.9	11.4	23.6	13.0	19.2	17.7	14.0
仕事		14.1	12.3	12.5	19.6	13.6	8.7	13.8	12.2	12.6	9.0
一人である時		17.2	2.6	10.0	17.9	6.8	4.7	3.3	9.5	8.0	7.0
勉強		0	6.5	5.0	5.4	2.3	4.7	4.1	4.7	4.6	5.6
この中がない		3.1	0.6	3.8	10.7	4.5	0.8	1.6	3.2	2.9	4.5

「友人や仲間といる時」に生きがいを感じる者は、服飾系が8割を超えており他の学習系列や初等科との有意差が認められる。また、その専門性から当然のことと考えられるが「スポーツや趣味に打ち込んでいる時」に生きがいを感じるものは、スポーツ系の者が断然多く、特徴的である。「家族」では、有意差はあまりないが、「一人である時」「社会に役立つ」では、有意差が認められる。

男女の比較検討では、「友人や仲間」「親しい異性」「家族」「スポーツや趣味」のそれぞれに有意差が認められる。「親しい異性」「家族」での有意差は興味深い。

1993年入学者と女全体との比較検討では、「家族」「社会に役立つ」「友人や仲間」「親しい異性」が増加、「勉強」「スポーツや趣味」が、やや減少している。10年前に比べると男女共学になり異性交友のチャンスが広がりさらに開放的に行われるようになったことが要因と推測される。全体傾向としては、現代の青年は、仕事や勉強よりも、仲間と一緒にスポーツをしたり、異性と交友を深めたり、家族と過ごす時間に生きがいを感じていることがうかがえる。

(3) 教えてもらいたい先生のタイプ

学校生活に関しては、どのようなタイプの先生に教えてもらいたい、先生像を調べてみた。次の質問によって、表3のような結果が得られた。

あなたは、学校でどういう先生に教えてもらいたいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

- イ. どちらかといえば、サークル活動やクラブ活動を通じて学生と接触する先生のほうがよい
- ロ. どちらかといえば、授業や学問を重視する先生のほうがよい
- ハ. どちらかといえば、学生の家庭や一身上のことも相談に乗ってくれる先生のほうがよい

2003年入学者全体についてみると、「サークル活動やクラブ活動を通じて学生と接触する先生」（接触型）と、「学生の家庭や一身上のことも相談に乗ってくれる先生」（世話型）が45.9%と43.4%でおよそ90%を占め、「授業や学問を重視する先生」（授業重視型）は、わずか10.3%にとどまっている。男女別では、「家庭のことや一身上のことも相談」が、男では34.1%に対して女は46.3%を占めており男女の有意差が認められる。逆に、「サークル・クラブ活動を通じて」は男56.1%と半数を超えているのに対して女は42.8%にとどまっている。

表3 教えてもらいたい先生のタイプ

(%)

項目	対象群	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討								1993年 入学者全体	
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性		全体
接 触 型		35.9	60.4	40.0	37.5	38.6	43.3	56.1	42.8	45.9	51.7
世 話 型		51.6	33.1	48.8	37.5	47.8	49.6	34.1	46.3	43.4	38.3
授 業 重 視 型		12.5	6.5	10.0	23.2	13.6	7.1	9.8	10.4	10.3	9.9
無 回 答		0	0	1.2	1.8	0	0	0	0.5	0.4	0

学習系列・科別検討では、スポーツ系が「接触型」を多く希望し、服飾系・養護系が、およそ半数が「世話型」を希望している点で対照的結果を示している。

1993年入学者と女全体との比較では、項目では接触型が10%近く減少傾向にあるのに対して世話型の先生を好む者が8%ほどの増加傾向を示している。

表4 表3の検定結果（有意差が認められたもの）

統計的に優位な組み合わせと優位水準（**：1%，*：5%）

2003年入学者のコース別検討（全体**，服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，養護系と経営系**・総合系**・初等科**，経営系と総合系**・初等科**，総合系と初等科**）

(4) 希望する職場（職業）

職業意識の一端をとらえるために、働くとしたら、どのような職場（または職業）で働きたいかを質問してみた。複数回答によって得られた結果は、表5のとおりである。

2003年入学者全体では、「自分の才能を活かせる職場」が67.6%で一番多く、次に「気持ちの良い人の多い職場」が62.7%と多い。「収入が多い職場」は53.3%で、「将来の不安がない職場」が46.1%を示している。「かっこいい職場」「仕事がらくな職場」をあげた者は少なく10%を下回っている。また、「休暇がきちんととれたり、残業のあまりない職場」「世の人のためになる仕事をしている職場」は、ともに30%を超えている。

入学したばかりの時点での調査では、労働条件に関するよりも、個性や人間関係のよさを重視している。

表6 表5の検定結果(有意差が認められたもの)

統計的に優位な組み合わせと優位水準 (**:1%, *:5%)

2003年入学者のコース別検討(収入が多い職場**, 才能が活かせる職場**, 将来の不安がない職場**, 良い人が多い職場*, カッコいい職場**, 仕事がらくな職場**, ・休暇がとれる職場**, 世のためになる職場**, 将来の不安がない職場**)才能が活かせる職場(服飾系と養護系**・経営系**・総合系*・初等科**, スポーツ系と養護系**・経営系**) 良い人が多い職場(スポーツ系と養護系*・初等科*) 収入が多い職場(服飾系と経営系*・初等科**, スポーツ系と経営系**・初等科**, 養護系と初等科**, 経営系と総合系*・初等科**, 総合系と初等科*) 将来の不安がない職場(服飾系とスポーツ系*・養護系**・経営系*, スポーツ系と総合系*・初等科**, 養護系と総合系**・初等科**, 経営系と総合系*・初等科**) 休暇がとれる職場(スポーツ系と経営系**, 養護系と経営系**, 経営系と総合系*・初等科**) 世のためになる職場(服飾系と養護系**・総合系*・初等科**, スポーツ系と経営系**・初等科*, 養護系と経営系**, 経営系と総合系*・初等科**) 仕事がらくな職場(スポーツ系と初等科*, 養護系と経営系*, 経営系と初等科**) カッコいい職場(服飾系と養護系*・総合系*・初等科*, スポーツ系と養護系*・初等科*, 養護系と経営系**, 経営系と総合系*・初等科*)

2. 人間観(連帯感)

第2には、どのような人間関係をもっているか10質問項目からみてみよう。しかし、ここでいう「人間観」は、人間観一般を問題にするのではなく、連帯感を通じた側面に限っている。

つまり、友人・仲間など身近な人間関係(ないしは、集団関係、更にはこうした人間関係の中でとらえられる他人の存在)に対して、ポジティブな態度を示すか、それともネガティブな態度を示すか、を探ることに力点を置いている。

なお、設問項目は、意味内容から次の4群に大別している。

- ①協 力…協同・協力に対する積極的な態度…イ・ニ
- ②奉 仕…奉仕への意欲・犠牲的精神…ハ・チ・リ
- ③信頼感…对人的信頼感…ロ・ト・ヌ
- ④友 好…交友の楽しさ・仲間志向…ホ・ヘ

項目分析は紙面の関係で割愛せざるを得ないが、各項目の内訳を「人間関係に肯定的な回答」という形で整理してみると、表7のようになる。

表8【連帯尺度の各項目の人間関係に肯定的な回答】の全体結果を検討してみると、意味内容《協同》では、圧倒的に「協力すれば相当なことができる」が80%を超えている。

反面「社会奉仕に参加する」は25.7%と少ない。《奉仕》では、リーダーを肯定的に回答しているのが55%、「自分の生活を犠牲にしたくない*」は20%であり、「世のために生涯をささげる*」は5%と低い。《信頼感》は、どの項目も50%前後であり差はない。《友好》は、「友達と一緒に楽しい」が77.3%と高い。

学習系列・科別でみると、《協同》では、「協力すれば相当のことができる」が初等科91.3%と高く、経営系が69.6%と低い。《奉仕》では、「リーダーになりたくない*」がスポーツ系と養護系で60%を超えているのに対して経営系・総合系では40%台である。「世のために生涯をささげる」は、あまり差がなく全て10%に満たない。

男女の比較では、「友達付き合いを深めたくない*」が男35.8%女44.8%と差がみられる。

次の文章の一つ一つについて、あなたの考えを「そう思う」か「そうは思わない」のどちらかで答えて下さい。(答え方：イの文章で「そう思う」なら に該当の記号を で囲んでください)

	そう思う	そうは思わない	わからない
イ. 世の中は、助け合いなのだから、私は自分の生活を少しぐらいは犠牲にしても、社会奉仕に参加するつもりだ	イ-1	イ-2	イ-3
ロ. 私は、他人というものは一見信用できそうでも、結局はあてにできないと思う	ロ-1	ロ-2	ロ-3
ハ. 私は、リーダーになって苦勞するよりは、のんきに人に従っているほうが気楽でよい	ハ-1	ハ-2	ハ-3
ニ. 私は無力な存在だが、みんなで力を合わせれば、相当なことができるものだと思う	ニ-1	ニ-2	ニ-3
ホ. 私は、一人であるよりも、ほかの人や仲間と一緒にいるほうが楽しい	ホ-1	ホ-2	ホ-3
ヘ. 私は、一人であるほうが、心が落ち着く	ヘ-1	ヘ-2	ヘ-3
ト. 私は、友達付き合いを深めすぎて、あまりに束縛されたくない	ト-1	ト-2	ト-3
チ. 私は、世の中をよくするために、生涯をささげてもよい	チ-1	チ-2	チ-3
リ. 困っている人を助けるのはいいが、自分の生活まで犠牲にするつもりはない	リ-1	リ-2	リ-3
ヌ. みんなと協力しても、結局は一部の人の利益になってしまい、正直者が損をすると思う	ヌ-1	ヌ-2	ヌ-3

1993年入学者と女性全体との比較検討では、「自分の生活を犠牲にしたくない」を否定的にとらえている者(20.6%)が10年前(16.4%)より増加しているのに対して、「友達付き合いを深めたくない」を否定回答している者が減少している。

全体傾向としては、仲間と一緒に「協同」すれば、相当なことができると考えている青年が多く、連帯感が生きる力となっていることが推測できる。

表7 表8の検定結果(有意差が認められたもの)

統計的に優位な組み合わせと優位水準 (**:1%, *:5%)

(全体**, 服飾系とスポーツ系**, 養護系**, 経営系**, 総合系**, 初等科**, スポーツ系と養護系**, 経営系**, 総合系**, 初等科**, 養護系と経営系**, 総合系**, 初等科**, 経営系と総合系**, 初等科**, 総合系と初等科**) 連帯感尺度の肯定的な回答

2003年入学者のコース別検討(社会奉仕に参加する**, 他人はあてにできない**, リーダーになりたくない**, 協力すれば相当なことができる**, 仲間と一緒に楽しい**, 一人のほうに落ち着く**, 友達付き合いを深めたくない**, 世のために生涯をささげる**, 自分の生活を犠牲にしたくない**, 正直者が損をする**) 社会奉仕に参加する(経営系と初等科*) 協力すれば相当なことができる(服飾系と初等科*, スポーツ系と初等科*, 経営系と初等科**, 総合系と初等科*) 仲間と一緒に楽しい(服飾系とスポーツ系**, 養護系*, 経営系*, 初等科**) 友達付き合いを深めたくない(服飾系と経営系*, スポーツ系と経営系*, 養護系と経営系**, 総合系*, 経営系と初等科*) 自分の生活を犠牲にしたくない(経営系と総合系*) 正直者が損をする(服飾系とスポーツ系*, 養護系**, 初等科**, 養護系と経営系*, 総合系*)

表8 連帯感尺度の各項目の人間関係に肯定的な回答

(%)

意味	項目	対象群	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討								1993年 入学者全体	
			服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性		全体
協 同	協力すれば相当なことができる 社会奉仕に参加する		76.6	81.8	82.5	69.6	75.0	91.3	78.9	82.6	81.7	86.4
			20.3	26.6	26.3	17.9	20.5	32.3	28.5	24.9	25.7	29.1
奉 仕	リーダーになりたくない* 自分の生活を犠牲にしたくない* 世のために生涯をささげる		50.0	61.7	61.3	41.1	40.9	56.7	61.0	53.2	55.0	52.1
			17.2	16.9	16.3	17.9	25.0	26.8	17.9	20.6	20.0	16.4
			1.6	5.8	5.0	7.1	6.8	3.9	9.8	3.5	5.0	4.8
信 頼 感	正直者が損をする* 友だちづき合いを深めたくない* 他人はあてにできない*		43.8	50.6	57.5	37.5	50.0	70.9	49.6	55.7	54.3	62.5
			43.8	34.4	55.0	26.8	43.2	51.2	35.8	44.8	42.7	55.6
			56.3	51.9	55.0	50.0	52.3	63.0	56.9	55.0	55.0	57.4
友 好	仲間と一緒に楽しい 一人の方が心が落ち着く		64.1	83.1	78.8	78.6	68.2	78.7	86.2	74.6	77.3	81.5
			31.3	55.2	52.5	41.1	43.2	63.0	54.5	50.2	51.2	55.1

(注) *印は「そうは思わない」の回答が人間関係に肯定的な回答となる。

3. 家庭観

(1) 子どもにとって好ましい親の態度

家庭観については、まず、子どもに対する親の態度としてどのようなものがよいと思うか、を調べてみた。次の質問によって、表9に示すような結果が得られた。

あなたは、子どもに対する父親・母親の態度として、次の中でどれがよいと思いますか。次の中からそれぞれに一つずつ選んで、()の中に記入して下さい。

父親の態度 () 母親の態度 ()

- イ. 何事によらず、きびしい
- ロ. 子どもの気持ちを理解した上でも、信じることに従ってきびしくする
- ハ. 子どもの気持ちを理解した上で、きびしく言わずに見守る
- ニ. 何事によらず、自由にさせる

北海道浅井学園大学短期大学部2003年入学者の生活意識に関する調査

全体では、子どもにとって好ましいとされる父親の態度は、「子どもの気持ちを理解した上でも、信じるところから従ってきびしくする」という理解・厳格型（47.6%）が最も多く、次に「子どもの気持ちを理解した上で、きびしく言わず見守る」という理解・自由型（33.1%）である。「何事によらず、きびしい」という厳格型や「何事によらず、自由にさせる」という自由・放任型のような極端なタイプは少なく、あまり支持されていない。多くの者が、子どもを理解することを望んでいる。厳格な方と自由な方とに2分すると、厳格（53.5%）の方が自由（42%）を支持する者よりやや多い。男女別では、理解・厳格型には差がないが、理解・自由型では、男（27.6%）女（34.8%）の差が認められる。学習系列・科別では、理解・厳格型で初等科・養護系・スポーツ系の支持者が半数を超えているのに対して、他は30%台である。

表9 子どもにとって好ましい親の態度

（%）

父母の別	対象群 項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討										1993年 入学者全体
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体		
父親	厳格型	6.3	7.1	2.5	8.9	9.1	3.9	8.9	5.0	5.9	3.9	
	理解・厳格型	35.9	50.6	51.3	39.3	36.4	55.1	47.2	47.8	47.6	45.1	
	理解・自由型	35.9	29.9	37.5	32.1	40.9	30.7	27.6	34.8	33.1	44.5	
	自由・放任型	20.3	8.4	2.5	10.7	11.4	6.3	8.9	9.0	9.0	6.5	
	その他の	1.6	2.6	3.8	8.9	2.3	3.9	6.5	2.7	3.6	0	
	無回答	0	1.3	2.5	0	0	0	0.8	0.7	0.8	0	
母親	厳格型	6.3	6.5	3.8	8.9	2.3	2.4	6.5	4.5	5.0	1.9	
	理解・厳格型	32.8	46.1	46.3	32.1	40.9	44.9	38.2	43.5	42.3	44.3	
	理解・自由型	48.4	40.9	47.5	39.3	38.6	47.2	39.8	45.3	44.0	49.7	
	自由・放任型	12.5	5.8	0	12.5	11.4	3.9	11.4	5.0	6.5	4.1	
	その他の	0	0.7	1.2	7.2	4.5	1.6	4.1	1.2	1.9	0	
	無回答	0	0	1.2	0	2.3	0	0	0.5	0.3	0	

1993年入学者と女性全体との比較検討では、有意差が認められ、理解・厳格型を支持するものが若干増えているのに対して、理解・自由型を支持するものが、この10年間でかなり減っている。

一方、好ましい母親の態度としては、理解・自由型が44.0%の者に、理解・厳格型が42.3%の者に支持されており、父親よりも理解・自由型を好ましいとする者が多くなっている。子どもの気持ちを理解し見守る姿勢を父親に望む以上に母親に望んでいるといえる。学習系列・科別検討では、理解・厳格型でスポーツ・養護系・初等科と服飾系・経営系との有意差が認められる。養護の自由・放任型を支持する者が0%なのは注目すべきことと言える。

1993年入学者と女性全体との比較検討では、あまり大きくは変わらないが、母親の厳格型を支持する者がやや増えている。

表10 表9の検定結果（有意差が認められたもの）

統計的に優位な組み合わせと優位水準（**：1%，*：5%）

父親（全体**，服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，養護系と経営系**・総合系**・初等科**，経営系と総合系**・初等科**，総合系と初等科**）母親（全体**，服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，養護系と経営系**・総合系**・初等科**，経営系と総合系**・初等科**，総合系と初等科**）

(2) 家庭・仕事に対する望ましい親の態度

次に、家庭や仕事に対して、どのような態度の親が望ましいとみているかを調べてみる。これについては、次のような質問で、表11の結果が得られた。

あなたは、父親としては、どういう人が望ましいと思いますか。次の中から一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

- イ. 仕事を何よりも大切にする父
- ロ. どちらかといえば、家庭よりも仕事を大切にする父
- ハ. どちらかといえば、仕事よりも家庭を大切にする父
- ニ. 家庭生活を何よりも大切にする父

それでは、母親として、どういう人が望ましいと思いますか。次の中から一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

- イ. 家庭のことを何よりも大切にする母
- ロ. どちらかといえば、職業や社会のことよりも家庭を大切にする母
- ハ. どちらかといえば、家庭のことよりも職業や社会を大切にする母
- ニ. 職業や社会のことを何よりも大切にする母

表11 家庭・仕事に対する望ましい親の態度

(%)

父母の別	対象群 項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討									1993年 入学者全体
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体	
父親	仕事専念型	4.7	1.3	0	7.1	0	0.8	4.1	1.2	1.9	1.6
	仕事優先型	15.6	18.2	21.3	16.1	15.9	18.9	19.5	17.7	18.1	17.4
	家庭優先型	51.6	53.2	57.5	48.2	50.0	57.5	43.1	57.2	53.9	68.0
	家庭専念型	10.9	18.2	10.0	21.4	13.6	12.6	21.1	12.7	14.7	13.0
	その他	17.2	9.1	11.2	7.2	20.5	10.2	12.2	11.2	11.4	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
母親	仕事専念型	0	0.6	1.3	3.6	0	1.6	1.6	1.0	1.1	0.6
	仕事優先型	4.7	1.9	2.5	1.8	2.3	1.6	1.6	2.5	2.3	1.5
	家庭優先型	42.2	41.6	48.8	37.5	40.9	43.3	36.6	44.5	42.7	48.5
	家庭専念型	48.4	52.6	41.3	53.6	43.2	51.2	54.5	47.8	49.3	49.4
	その他	4.7	3.3	6.1	3.5	13.6	2.3	5.7	4.2	4.6	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2003年入学者全体について、家庭や仕事に対しての望ましい父親の態度をみると、「どちらかといえば、仕事より家庭を大切にする父」（家庭優先型）をあげる者が53.9%で最も多い。「どちらかといえば、家庭より仕事を大切にする父」（仕事優先型）は2番目に多いが、家庭優先型をあげる者に比べてはるかに少ない。家庭専念型と仕事専念型をあげる者は少なく、特に、父親に仕事専念を望むものは1.9%と極端に少ない。全体的には、父親に対しては、仕事よりは家庭を大切にすることを期待している者が7割を超えている。

男女の比較では、家庭優先型と家庭専念型に有意差が認められ、共に女が父親に家庭を大切にすることを期待している。

学習系列・科別検討では、仕事優先型を望むものが、養護系と総合系が、共に0%である。また、家庭優先型を望む者は、養護系と初等科の57%強に比べて経営系では48.2%と有意差が認められる。

1993年度入学者と女性全体との比較検討では、家庭優先型が、家庭専念型がともに若干減少している。仕事優先・専念型を期待する者では、大きな変化は見られない。

一方、母親の態度に関しては、入学者全体では、「家庭のことを何よりも大切にする母」（家庭専念型）をあげる者が、49.3%で、「どちらかといえば、職業や社会のことよりも家庭を大切にする母」（家庭優先型）をあげる者が42.7%となっており、ほとんど全員が、職業や社会より家庭を大切にすることを母に望んでいる。父親に対する場合（68.6%）と比べると家庭を大切にする母親（92%）が望ましいとする者がはるかに多い。

男女別の比較検討では、母親に家庭優先型を期待する者は、男（36.6%）に比べ女（44.5%）が多く、逆に、家庭専念型を期待する者は、女（47.8%）に比べ男（54.5%）が多い。

学習系列・科別の比較では、家庭専念型で経営系と養護系に、家庭優位型で養護系と経営系で有意差がみとめられる。1993年入学者と女性全体の比較検討では、家庭優先・専念型が緩やかではあるが減少傾向にある。

(3) 老いた親の扶養

次に、老いた親の扶養について、どのような考えを持っているのかを調べてみよう。この点は、次の質問によって調べ、表12に示すような結果を得た。

老後の親を養うことについて、あなたの考えに近いものを一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

- イ. どんなことをしてでも扶養する
- ロ. 自分の生活力に応じて扶養する
- ハ. 親は自分自身の力や公的保障で生活すべきだ
- ニ. わからない

表12 老いた親の扶養

(%)

対象群 項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討							1993年 入学者全体		
	服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体	1993年 入学者全体
生活力相応型	56.3	61.0	66.3	53.6	47.7	64.6	60.2	60.2	60.2	64.8
積極扶養型	18.8	25.3	20.0	21.4	31.8	22.0	21.1	23.6	23.0	21.5
非扶養型	4.7	2.6	2.5	1.8	0	1.6	3.2	2.0	2.3	1.5
わからない	15.6	9.7	5.0	21.4	15.9	10.2	10.6	11.9	11.6	12.2
その他	4.6	1.4	6.2	0	4.6	1.6	4.9	2.0	2.7	0
無回答	0	0	0	1.8	0	0	0	0.2	0.2	0

2003年入学者全体では、老後の親の扶養について、表12のとおり「自分の生活力に応じて扶養する」（生活力相応型）が60.2%と断然多く、ついで「どんなことをしてでも扶養する」（積

極扶養型)が23.0%となっており、両方合わせて83.2%の者が何らかの形で親を扶養すると答えている。非扶養型は2.3%である。

男女別の比較では、大きな差は出ていないが「積極扶養型」で女が男に比べ若干多くなっている。学習系列・科別では、「生活相応型」で養護系(66.3%)と総合系(47.7%)と差が大きい。1993年入学者と女性全体との比較では、「生活相応型」が減少し、「積極扶養型」が増加している。この10年間を見てみると、多少の増減はあるが、「生活相応型」「積極扶養型」を合わせると80%を超えており、現代青年の親への前向きな扶養が感じられる。

4. 結婚観

(1) 結婚時の年齢と結婚相手の年齢

まず、結婚時の年齢と結婚相手の年齢についてであるが、次の質問によって調べ、表13に示すような結果が得られた。

あなたが、将来結婚すると想定して、次の質問に答えて下さい。結婚は何歳くらいでしますか。
次の中から一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

イ. 20歳前 ロ. 21～25歳 ハ. 26～30歳 ニ. 31～35歳 ホ. 36歳～

それでは、相手の年齢は何歳くらいが適当だと思いますか。次の中から一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

イ. 20歳前後 ロ. 21～25歳 ハ. 26～30歳 ニ. 31～35歳 ホ. 36歳～

2003年入学者全体では、結婚時の年齢は、21～25歳までが59.4%、26～30歳までが36.2%で、ほとんどが30歳までに結婚したいと思っている。結婚相手の年齢は、男は21～25歳が71.6%と多く、女は26～30歳が44.5%と多く男女の差が認められる。学習系列・科別では、服飾系が26～30歳までを結婚年齢に考えているものが45.3%と25歳までに次いで多いのに対して、総合系、スポーツ系は30%強と少ない。結婚相手の年齢では、男女差が大きく、男は25歳までの若い女性を望んでいる。1993年入学者全体と女性全体との比較では、相手の年齢で25歳までを望む者が増え、26～30歳を望む者が減少している。

表13 結婚時の年齢と結婚相手の年齢

(%)

項目	対象群	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討									1993年 入学者全体
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体	
結婚の年齢	～25	51.6	67.5	52.5	64.3	56.8	56.7	66.6	57.2	59.4	57.6
	26～30	45.3	31.8	40.0	28.6	31.8	39.4	29.3	38.3	36.2	39.2
	31～	3.1	0	7.5	5.4	11.4	3.9	3.3	4.2	4.0	3.3
	その他	0	0.7	0	1.7	0	0	0.8	0.2	0.4	0
相手の年齢	～25	40.6	64.9	38.8	62.5	45.5	41.7	71.6	44.0	50.5	32.7
	26～30	45.3	29.2	43.8	30.4	40.9	51.2	24.4	44.5	39.8	55.3
	31～	14.1	4.5	17.5	7.1	13.6	7.1	2.4	11.5	9.3	11.9
	その他	0	1.4	0	0	0	0	1.6	0	0.4	0

(注)「20歳前後」「36歳～」は該当者が極小のため、近接年齢に合算した。

表14 表13の検定結果（有意差が認められたもの）

統計的に優位な組み合わせと優位水準（**：1%，*：5%）

結婚年齢（全体**，服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，養護系と経営系**・総合系**・初等科**，経営系と総合系**・初等科**，総合系と初等科**）

結婚相手の年齢（全体**，服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，養護系と経営系**・総合系**・初等科**，経営系と総合系**・初等科**，総合系と初等科**）

(2) 結婚相手の職業

結婚相手の職業については、次の質問によって調べ、表15に示すような結果を得た。

あなたは、どのような職業の人を結婚相手として望みますか。

イ.公務員 ロ.自営業 ハ.農業 ニ.漁業 ホ.商業 ヘ.会社員 ト.その他

表15 結婚相手の職業

(%)

項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討							1993年入学者全体		
	服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体	1993年入学者全体
公務員	39.1	52.6	60.0	55.4	45.5	53.5	38.2	56.2	52.0	44.0
自営業	6.3	3.3	3.7	5.4	9.1	2.4	1.6	5.0	4.2	8.6
会社員	6.3	2.6	0	1.8	2.3	1.6	4.9	1.5	2.3	43.5
農業・漁業・商業	0	3.2	2.6	3.6	0	5.5	4.9	4.0	3.0	3.9
その他	21.8	20.1	13.7	25.0	15.9	15.0	23.6	16.7	18.3	0
無回答	26.5	16.2	20.0	8.8	27.2	21.3	24.4	17.9	19.4	0
不明	0	2.0	0	0	0	0.7	2.4	0.2	0.8	0

(注) 農業・商業は該当者が微小のため合算した。漁業は該当者0である。

2003年入学者全体では、結婚相手として公務員を望む者が他に比べて圧倒的に多い。これは現代の社会世相を反映してのことと思われる。特に、養護系・経営系・初等科の者に公務員志向が多い。反面、会社員・農業・商業を望む者は少数である。男女別の比較では、公務員を相手に望む者が男38.2%に比べ、女56.2%と多い。学習系列・科別では、すべて公務員を望む者が多いのに反して、会社員を望む者が少ない。1993年入学者全体と女性全体との比較では、会社員を望むものが極端に減少している。合理化によるリストラなどの影響と考えられる。

表16 表15の検定結果（有意差が認められたもの）

統計的に優位な組み合わせと優位水準（**：1%，*：5%）

（全体，服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**，養護系と経営系**・総合系**・初等科**，経営系と総合系**・初等科**，総合系と初等科**）

(3) 欲しい子どもの数

欲しい子どもの数については、次の質問によって調べ、表17に示すような結果が得られた。

あなたが将来結婚したと想定して、子どもは何人くらい欲しいですか。次の中から一つ選んで、記号を○でかこんで下さい。

イ. 0人 ロ. 1人 ハ. 2人 ニ. 3人 ホ. 4人 ヘ. それ以上()人

表17 欲しい子供の数

(%)

項目	対象群	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討								1993年 入学者全体	
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性		全体
0人		7.8	0.6	2.5	7.1	4.5	1.6	2.4	3.2	3.0	3.5
1人		1.6	6.5	5.0	10.7	2.3	2.4	6.5	4.2	4.8	7.4
2人		67.2	57.1	66.3	55.4	63.6	55.1	57.8	60.2	59.6	58.8
3人		21.9	35.1	22.5	26.8	25.0	36.2	31.7	29.6	30.1	27.7
4人以上		1.5	0.7	3.7	0	4.6	3.9	1.6	2.6	2.3	2.7
無回答		0	0	0	0	0	0.8	0	0.2	0.2	0

2003年入学者全体では、子どもは2人欲しいという者が最も多く6割近くに達する。3人欲しいという者も3割と多く、合わせて9割を占めている。

1993年入学者全体と女性全体の比較では、大きくは変わっていないが、1人が減って3人が増えている。服飾系・経営系の子どもを欲しがらない者が7%を超えているのが気になるところである。

表18 表17の検定結果 (有意差が認められたもの)

統計的に優位な組み合わせと優位水準 (** : 1%, * : 5%)

(全体, 服飾系とスポーツ系**・養護系**・経営系**・総合系**・初等科**, スポーツ系と養護系**・経営系**・総合系**・初等科**, 養護系と経営系**・総合系**・初等科**, 経営系と総合系**・初等科**, 総合系と初等科**)

(4) 親や祖父母との同居

親や祖父母との同居については、次の質問によって調べ、表19のような結果が得られた。

あなたが将来結婚したと想定して、一緒に暮らす家族は次のうち望ましいのはどれですか。次の中から一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。子どもは想定していません。

- イ. 夫婦のみ (同居はしたくない)
- ロ. 相手の両親と同居してもかまわない
- ハ. 自分の両親と同居してもかまわない
- ニ. 相手の両親・祖父母と同居してもかまわない
- ホ. 自分の両親・祖父母と同居してもかまわない
- ヘ. 両方の両親・祖父母と同居してもかまわない

北海道浅井学園大学短期大学部2003年入学者の生活意識に関する調査

2003年入学者全体では、圧倒的に夫婦のみの生活を望むものが多く7割近くを占めている。同居では、自分の両親が8.2%相手の両親7.6%とともに1割に満たない。両方の両親・祖父母との同居が両親のみの同居を超えている。

男女の比較では、「自分の両親と同居してもかまわない」が男に比べて女に多く、「相手の両親と同居してもかまわない」は女より男に多い。学習系列・科別では、「夫婦のみ」が圧倒的に服飾系が多く総合系がやや少ない。

表19 親や祖父母との同居

(%)

項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討									1993年 入学者全体
	服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体	
夫婦のみ	82.8	67.5	66.3	71.4	59.1	62.2	68.3	67.4	67.6	58.8
相手の両親	4.7	11.0	2.5	5.4	13.6	7.1	9.8	7.0	7.6	12.6
自分の両親	6.3	5.8	12.5	8.9	11.4	7.9	4.9	9.2	8.2	13.9
相手の両親・祖父母	0	1.9	1.3	0	0	2.4	0.8	1.5	1.3	
自分の両親・祖父母	0	1.9	3.7	1.8	2.3	1.6	0.8	2.2	1.9	(4.1)
両方の両親・祖父母	6.2	11.8	13.7	12.5	13.6	18.1	15.4	12.4	13.1	10.7
無回答	0	0	0	0	0	0.7	0	0.3	0.3	0

(注) 1993年「相手の親, 祖父母」「自分の両親, 祖父母」は該当者が微小のため合算した数値である。

1993年入学者全体との比較では、夫婦のみの生活（同居を望まない）が、この10年間でかなり増加していると言える。

5. パソコン（パーソナル・コンピュータ）

(1) 日常生活でのパソコンの使用

今回の調査では、新たにパソコン（使う場所、操作、操作能力、日常生活でのワープロソフトの使用、短大でのワープロソフト等）に関する項目を追加した。まず、日常生活でのパソコンの使用についてであるが、次の質問によって調べ、表20に示すような結果が得られた。

あなたは日常生活でパソコンを使うことがありますか。次の中からあてはまるものを一つだけ選んで、記号を○でかこんで下さい。

- イ. 高校の授業で使う
- ロ. パソコンスクールで使う
- ハ. 自分専用のものを使う（メーカー・機種の名称:）
- ニ. 自分専用でないが、家庭にあるもので、使う
- ホ. 自分専用でないので、家庭にあるが、使わない
- ヘ. 知人・友人から借りて使う
- ト. 使わない

2003年度入学者全体では、自分専用のパソコンを使用しているのは1割であり、専用でないが家庭のパソコンを使うが4割を占めている。使わない、が2割を超え、女22.1%に比べ男30.7

となっている。学習系列・科別の検討では、自分専用が総合系・服飾系に多く、養護系・初等科が少ない。入学前にパソコンスクールに通っていた者はいない。

表20 日常生活でのパソコンの使用

(%)

項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討									
	対象群	服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体
高校の授業		18.1	23.4	16.3	21.4	18.2	13.4	22.8	17.4	18.7
パソコンスクール		0	0	0	0	0	0	0	0	0
自分専用		14.1	10.4	5.0	10.7	15.9	8.7	10.6	10.0	10.1
専用でない家庭のを使用		45.3	33.8	43.8	39.3	34.1	44.1	32.5	42.0	39.8
専用でないので使用しない		3.1	3.9	11.3	3.6	6.8	7.9	3.3	7.0	6.1
人から借りて使用		0	0	2.5	0	2.3	0.8	0	1.0	0.8
使わない		18.8	28.6	21.3	23.2	22.7	24.4	30.7	22.1	24.2

(2) パソコンの操作

パソコンの操作については、次の質問によって表21に示すような結果が得られた。

あなたは、パソコンを使うこと（操作すること）ができますか。当てはまるものの記号を○でかこんで下さい。

イ. 自由に使うことができる ロ. かなり使える ハ. 少し使える ニ. 全然使えない

1. (イ～ハに○をつけた人) パソコンをもっと上手に使えるようになりたいですか。

イ. ならない ロ. できるならならない ハ. そうは思わない

2. (ニに○をつけた人) パソコンを使えるようになりたいですか。

イ. ならない ロ. できるならならない ハ. そうは思わない

3. (全員に) この短大で行うパソコン授業やオープンカレッジでパソコンを習いたいと思いますか。

イ. 是非習いたい ロ. できるなら習いたい ハ. 習いたいとは思わない

全体の検討では、「パソコンを使うことができますか」の回答では、「自由に使える」「かなり使える」を合わせると7割を超えている。イ～ハと回答した者のうち、さらに、上手になりたい、できるならならない、と回答した者が、合わせて9割いる。短大でパソコンをならいたいと思っている者は、是非とできれば、を合わせて8割に達している。男女別の比較では、男女ともに、「使えるようになりたい」が圧倒的に多い。反面、「習いたいとは思わない」が男26.0%女14.4%を示し、独学での習得を目指している者も多い。学習系列・科別の比較では「かなり使える」が経営系・スポーツ系に多く、総合系に少ない。パソコンの使用については、大学生活を通して、かなり増加するものと推察できる。特に、経営系・総合系では、その専門性からも、必要性が高く、設問3の「できるなら習いたい」が「かなり使える」「少し使える」に移行することがうかがえる。

表21 日常生活でのパソコン

(%)

項目	対象群	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討								
		服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体
自由に使うことができる		4.7	7.8	6.3	10.7	6.8	10.2	7.3	8.2	8.0
かなり使える		60.9	66.9	62.5	67.9	47.7	62.2	66.7	61.7	62.9
少し使える		14.1	3.9	6.2	5.4	16.0	3.1	6.5	6.6	6.6
全然使えない		20.3	21.4	25.0	16.0	29.5	23.5	19.5	23.5	22.5
1. なりたい		56.9	48.8	60.0	83.0	45.2	49.0	48.5	57.3	55.2
できるならなりたい		41.1	43.8	36.7	17.0	51.6	47.9	43.4	40.1	40.9
そうは思わない		2.0	5.0	3.3	0	0	3.1	4.0	2.6	3.0
無回答		0	2.4	0	0	3.2	0	4.1	0	0.9
2. なりたい		61.5	51.5	90.0	55.6	46.2	46.7	41.7	61.7	57.6
できるならなりたい		30.8	36.4	5.0	33.3	30.8	43.3	41.7	28.7	31.4
そうは思わない		0	6.1	5.0	11.1	7.7	0	12.5	2.1	4.2
無回答		7.7	6.0	0	0	15.3	10.0	4.1	7.5	6.8
3. 是非習いたい		18.1	12.3	27.5	48.2	15.9	15.0	15.4	21.6	20.2
できるなら習いたい		67.2	63.0	58.8	42.9	61.4	65.4	58.5	61.9	61.1
習いたいとは思わない		14.1	23.4	11.3	8.9	22.7	16.5	26.0	14.4	17.1
無回答		0.6	1.3	2.4	0	0	3.1	0.1	2.1	1.6

(3) ワープロソフト

ワープロソフトについては、次の質問によって調べ、表22に示すような結果が得られた。

あなたは、日常生活でワープロソフト（word，一太郎）を使うことがありますか。

イ.高校の授業で使う ロ.パソコンスクールで使う ハ. 自分専用のもを使う ニ: 自分専用ではないが、家庭にあるものを使う ホ.専用でないので、家庭にあるものは、使わない ヘ. 知人・友人から借りて使う ト.使わない

- あなたは、ワープロソフトを使うこと（操作して文章を打つ）ができますか。
- （イ～ハを回答した人に）ワープロソフトを上手に使えるようになりたいですか。
- （ニと回答した人に）ワープロソフトを上手に使えるようになりたいですか。
- （全員に）この短大の授業やオープンカレッジでワープロソフトを習いたいと思いますか。

ワープロソフトの全体では、「自由に使える」「かなり使える」は、合わせて6割強で、上手になりたいか、では、9割強の者が「なりたい」「できればなりたい」と思っている。短大で学びたいか、では、8割近くの者が望んでいる。反面、「習いたいとは思わない」も全体で21.7%と多い。男女別での比較では、「使わない」が男54.5%で女40.0%との間に10%以上の差がある。しかし、入学当初の調査結果であることから、男女ともに現段階（2004/02）では、今後、使うものの増加が推察できる。学習系列・科別の比較では、「自由に使える」「かなり使える」は、スポーツ系で多く、総合系が少ない。

表22 ワープロソフト

(%)

項目	2003年入学者学習系列・科別・男女別検討									
	対象群	服飾	スポ	養護	経営	総合	初等	男性	女性	全体
高校の授業で使う		29.7	31.8	17.5	26.7	22.7	21.3	22.8	26.4	25.5
パソコンスクール		0	0	0	0	2.3	0	0	0.2	0.2
自分専用を使う		10.9	5.8	2.5	12.5	9.1	6.3	7.3	7.0	7.0
専用でない家庭のを使う		18.8	12.3	28.8	19.7	20.5	19.7	12.2	20.9	18.9
専用でないので使わない		6.3	1.9	3.8	1.8	0	7.9	2.4	4.5	4.0
友人・知人から借りて使う		0	0	0	0	2.3	1.6	0.8	0.5	0.6
使わない		34.3	48.2	46.3	39.3	43.1	42.5	54.5	40.0	43.4
無回答		0	0	1.1	0	0	0.7	0	0.5	0.4
1. 自由に使える		10.9	11.0	8.8	8.9	9.1	15.0	8.1	12.2	11.2
かなり使える		51.6	59.1	56.3	50.0	36.4	46.5	55.3	50.7	51.8
少し使える		10.9	5.8	7.5	8.9	22.7	7.1	6.5	9.5	8.8
全然使えない		26.6	24.1	27.4	32.2	31.8	30.7	30.1	27.4	28.0
無回答		0	0	0	0	0	0.7	0	0.2	0.2
2. なりたい		40.4	44.4	50.0	63.2	40.0	43.7	40.7	47.8	46.2
できるならなりたい		55.3	48.7	43.1	34.2	46.7	50.6	50.0	46.7	47.5
そうは思わない		4.3	6.0	6.9	0	10.0	4.6	8.1	4.5	5.3
無回答		0	0.9	0	2.6	3.3	1.1	0.2	1.0	1.0
3. なりたい		47.1	35.1	68.2	72.2	42.9	28.2	32.4	49.1	44.9
できるならなりたい		41.2	45.9	27.3	22.2	42.9	59.0	48.6	40.9	42.9
そうは思わない		5.9	13.5	4.5	5.6	7.1	7.7	16.2	5.5	8.2
無回答		5.8	5.5	0	0	7.1	5.1	2.8	4.5	4
4. 是非習いたい		15.6	11.0	25.0	46.4	11.4	9.4	14.6	17.9	17.1
できるなら習いたい		67.2	59.1	57.5	44.6	61.4	68.5	50.4	63.9	60.8
習いたいとは思わない		17.2	29.2	17.5	8.9	27.2	21.3	35.0	17.7	21.7
無回答		0	0.7	0	0	0	0.8	0	0.5	0.4

Ⅲ ま と め

以上、北海道浅井学園大学短期大学部に2003年4月に入学した者525名（男123名・女402名）を対象群に調査した「生活意識に関する調査」について全体傾向を報告した。報告に当たっては、学習系列・学科別・男女別の検討、1993年4月入学者女性全体の結果と比較している。しかし、男女共学の短期大学部として初めての調査であることから、対象群の人数の違い（前回のおよそ半数）や、男子学生回答も付加されたことから、1993年入学者の調査との有意性の検討は行っていない。結果については、各項目の回答結果の分析段階で要約的・結論的に記述しているので、ここでは、重複をさけ、総括的な傾向のみを簡潔に述べている。

①生活観：「金や名誉を考えずに自分の趣味にあった暮らし方をする」と回答した者が、半数を超え、個人の生活を大切にする者が多い。②人間観：「協力すれば相当なことができる」と回答した者が8割をこえており、人と人とのつながりを重視する者が多い。また、「社会奉仕に参加する」と回答したものが1993年入学者に比べ増加しているのは、現代社会の要請に即応したものと考えられる。③家庭観：父親・母親ともに、家庭を優先にしてほしいと望む者が8割を超えており、家庭を大切にする親を期待している。④結婚観：男女ともに公務員の女性や男性と結婚し、2～3人の子どもを産み、夫婦だけで生活したいと思っている者が多い。相手の職業で会社員を望む者が1993年入学者の調査結果に比べ極端に減少しているのは、この10年

間の日本の社会情勢を反映したものと考えられる。⑤パソコン：前回の調査では、ワープロの使用について調査したが、時代は明らかにパソコンに移っていることから、今回はパソコンについての意識調査を行った。したがって、前回との比較は行っていない。自分専用のパソコンを持っている者は10%ほどで、少ないが、かなり使うことができるは7割を超えており、もっと上手になりたいと学ぶ機会や場を望んでいるものも多い。

なお、今回の調査では、1993年入学者全体と女性全体との比較に合わせて、学習系列・学科別および男女別の比較も行った。しかし、男女別では、男（123名）女（402名）と対象群の差があり、有意差として認めることは難しいと判断する。学生の全体像は、本調査とは別に報告される同時実施の諸調査と照合し、考察を加えることで、さらに、明確になるものとする。また、入学時の調査結果が、その後の大学生活で、どのように変容していくのかの調査考察も重要であり、今後の課題として提起しておきたい。

文 献

- 1) 白佐俊憲：北海道女子短大1983年入学者の生活意識に関する調査，北海道女子短期大学研究紀要17号，67～80，1983.
- 2) 小杉直美・浅井幹男・白佐俊憲：北海道女子短期大学研究紀要第28号（創立30周年記念号）1993.
- 3) 総理府青少年対策本部編：10年前との比較から見た現代青少年，大蔵省印刷局，1981. 1992.
- 4) 総務庁青少年対策本部編：現代の青少年—第5回青少年の連帯感などに関する調査報告書—，大蔵省印刷局，1992. (2004・1・31)